



昔の文化体験を皆と続けたい



く どう しょう ぞう 工藤 章造さん

富士町在住。79歳。
平成7年に、郷土資料館ボランティアグループ『SLG』に加入。現在では、同グループの会長を務める。毎年、さまざまな文化体験事業を企画・開催。地域の文化継承を支えている。

私が所属している郷土資料館ボランティアグループ『SLG』は、昨年、活動25年目を迎えました。長年の活動でメンバーも増え、参加者が作った飾りを持ち帰ることができるようになりました。
『しめ飾り作り』といった体験事業のほりべつ夏祭りやりサイクルまつりでの『昔の遊び体験コーナー』など、多様な行事を行うことができるようになりました。
竹とんぼ飛ばしやたこ揚げなど、昔の遊びをする機会は減っています。だからこそ子どもたちにとっては新鮮なようで、本当に楽しそうなお姿を見せてくれます。子どもたちに昔の遊びを教え、一緒に楽しむことで、元気をもらっています。
また、平成7年から毎年、SLGのメンバーで、郷土資料館の大手門に大しめ縄を飾り付けています。昨年の年末には、大しめ縄に、今年の干支『戌』のしめ飾りをあしらっ

て飾り付けしました。市内に正月らしい文化を継承していくために始めたことが、今では私たちの年末の楽しみの一つにもなっています。
私は、今年で傘寿（80歳）を迎えますが、まだまだSLGの活動をやる気はありません。これからも、SLGの仲間や昔の遊びを楽しみに来る子どもたちと、文化体験をたくさん行っていききたいと思います。



▲1月6日(土)まで飾り付けている大しめ縄の飾りを作る工藤さん

湿原の魅力をより一層伝えていく

私たちが『NPO法人キウシト湿原・登別』の活動拠点『キウシト湿原』が、平成29年12月、『登別景観・みどり遺産』の第1号に指定されました。今後、今まで以上に湿原の魅力を発信していきたいと考えています。
キウシト湿原は、平成13年に環境省の『日本の湿地500』に選定されています。当時、湿原は、乾燥化や古タイヤなどの投棄、ササの生息域の拡大、外来植物の侵入といった危機に直面していました。そこで、ササや外来植物の刈り取り駆除などを地道に取り組んでいったところ、徐々に希少な在来種が復活し、かつての原風景を取り戻しつつあります。
キウシト湿原は現在、4月から11月にかけて一般公開し、私たちがガイドを行いながら、『ホテル観賞会』など季節に応じた行事を開催したり近隣小学校の授業などに利用されています。



▲『ミズバショウ観察会』など、季節ごとに多様な行事が開催されるキウシト湿原



ほり もと ひろし 堀本 宏さん

登別東町在住。64歳。
平成14年に『キウシト湿原の会』を立ち上げ、湿原の保全に尽力。現在は、湿原の管理を行っている『NPO法人キウシト湿原・登別』の理事長を務める。キウシト湿原の保全をけん引する一人。

今回の『登別景観・みどり遺産』の指定をきっかけに、湿原の大切さを知り、次代に残していこうとする人が増えるとうれしいと思っています。そのためにも、これからも多くの観察会などを開催するとともに、市と協力しながら、市民の憩いの場や子どもたちの学習の場としての環境づくりを進め、より一層、キウシト湿原の良さを伝えていきたいです。